



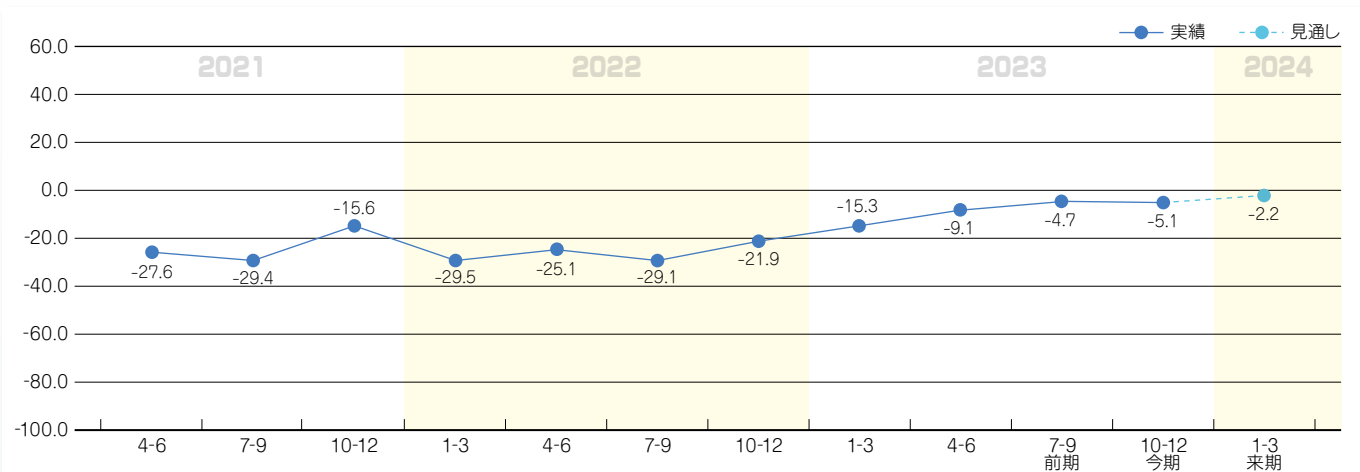
## 全業種

回答数312社

今期の業況D-Iは、前期比0.4ポイント低下の▲5.1。卸売業、サービス業は改善の一方で、製造業、小売業、建設・不動産業は悪化。卸売業をのぞくすべての業種で人手不足が深刻化している。来期の予想業況D-Iは、2.9ポイント上昇の▲2.2。製造業、建設・不動産業は改善を見込むが、卸売業、小売業、サービス業は悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

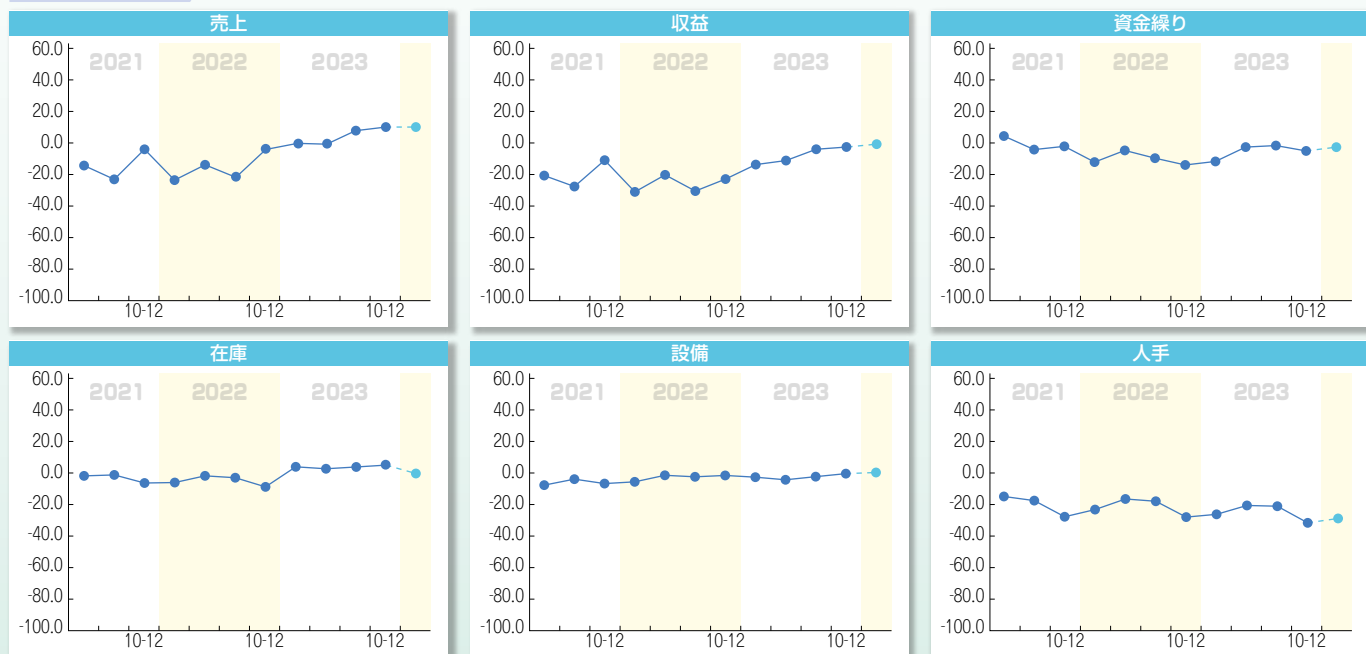
業況D-Iの推移



## 主要D-Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



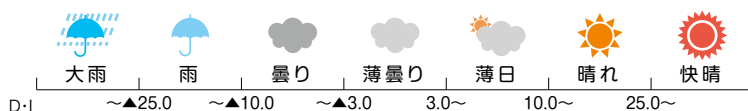
## へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査概要

実施時期 2023年12月1日～7日  
対象企業 312社  
対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

## 天気図の見方



D-I(ディフュージョンインデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)－(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。



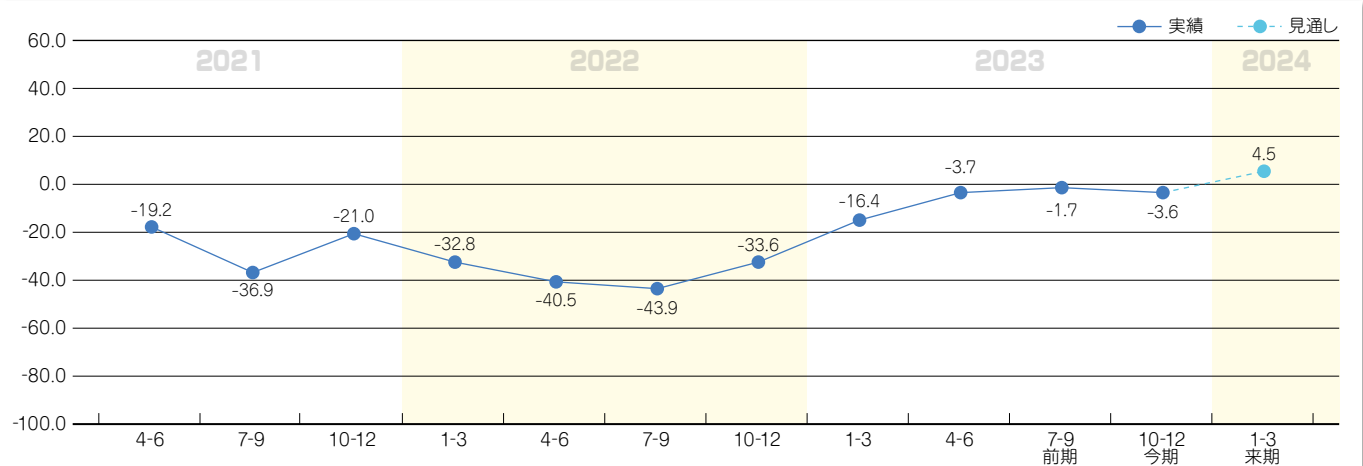
## 製造業

回答数110社

今期の業況D・Iは、前期比1.9ポイント低下の▲3.6。売上、収益は増加基調が続くなか、人手不足を課題とする企業が多い。来期の予想業況D・Iは8.1ポイント上昇の4.5と、改善の見通し。仕入コストや製造コストなどの増加が見込まれるが、受注は堅調であり生産体制の効率化や販売価格の見直しなどにより利益率の改善を図るとする声が多い。

前期実績 今期実績 来期見通し

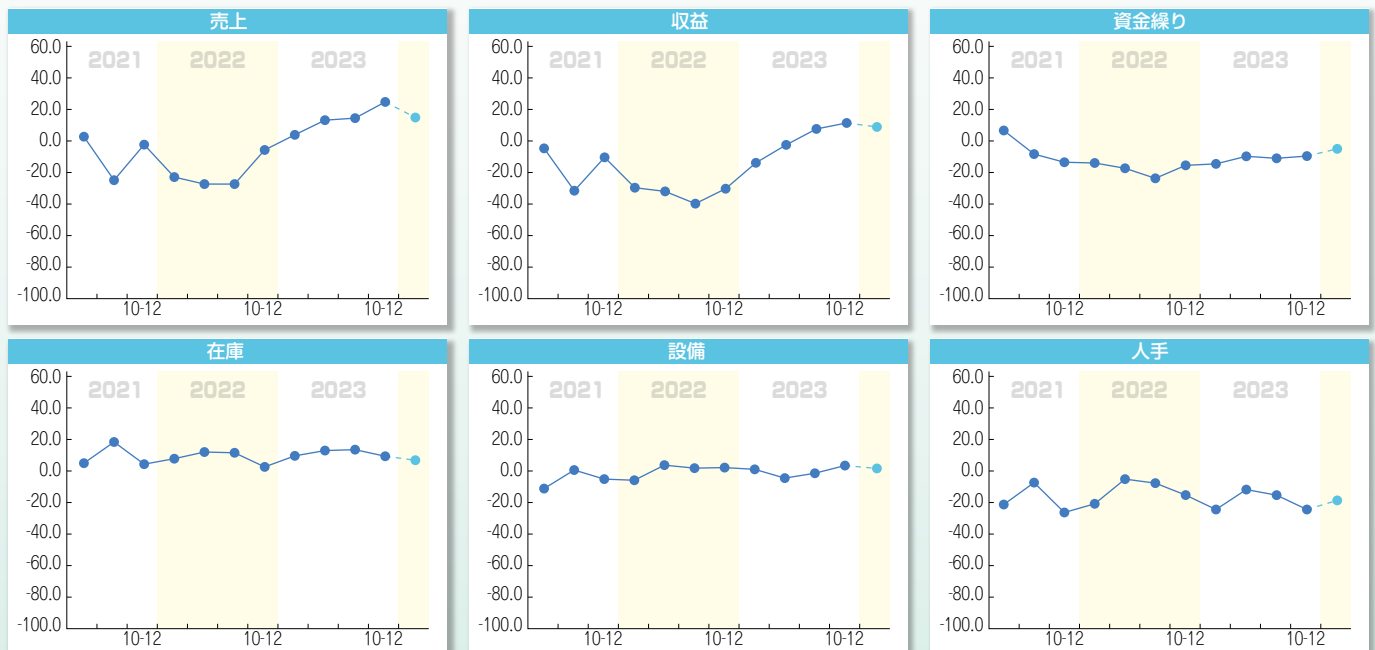
業況D・Iの推移



### 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 生産管理の厳格化により、ロス削減に取り組んでいる。価格交渉により、利益率良化を図る。(自動車部品製造)
- 受注状況は変わらないが、各種コスト高による影響は避けられない。(家具製造)
- 新規設備導入により、受注量が増加し、売上増加傾向。現在は、残業代抑制のため労働環境・体制の見直しや、原材料費の削減などに取り組んでいる。(プラスチック製品製造)
- 仕入コスト、製造コストともに上昇しており、利益率悪化。人材確保にも苦戦しており、業況回復には時間を要する。(繊維工業)





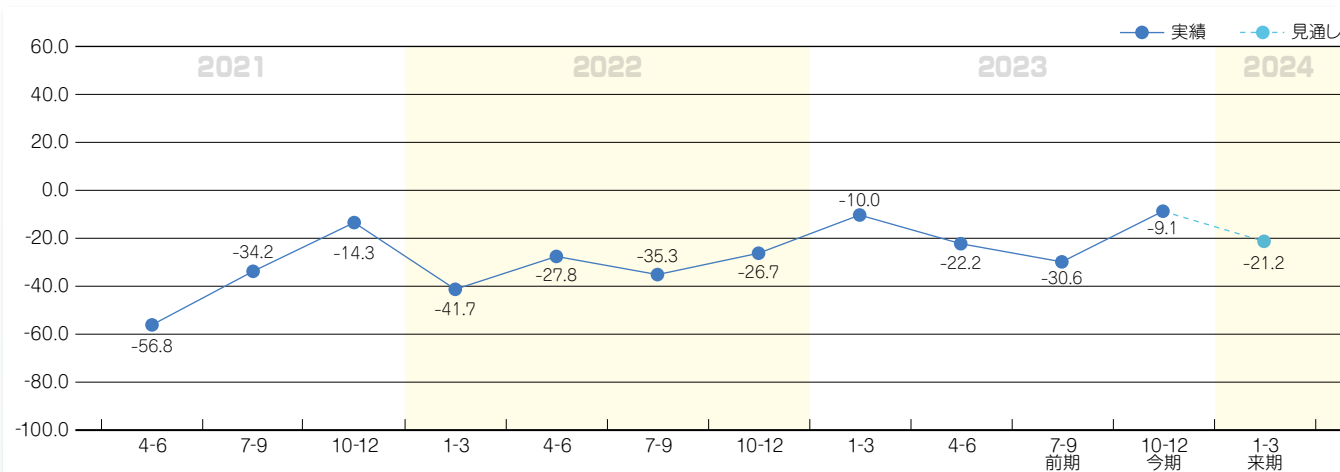
## 卸売業

回答数33社

今期の業況D・Iは、前期比21.5ポイント上昇の▲9.1と、大幅に改善。仕入コストなどの増加分を販売価格に転嫁できている企業が多く、売上とともに収益が改善。来期の予想業況D・Iは12.1ポイント低下の▲21.2と、悪化の見通し。仕入コスト高が長期化するなか、収益への影響を懸念する声が多い。

前期実績 今期実績 来期見通し

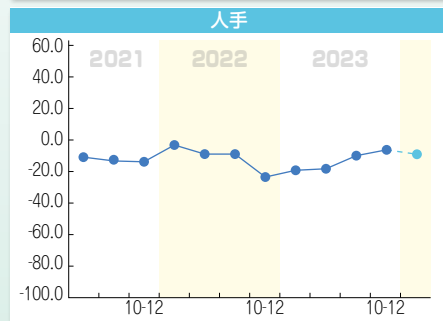
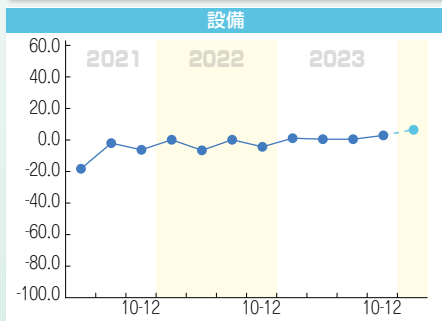
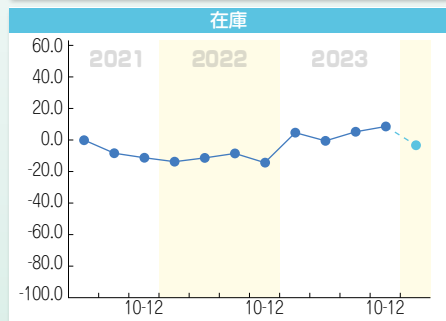
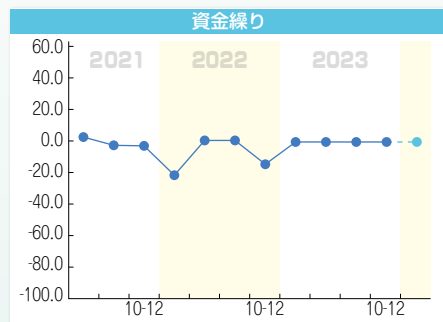
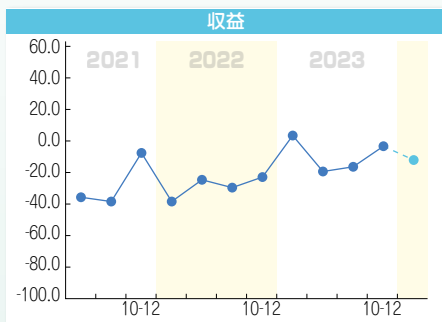
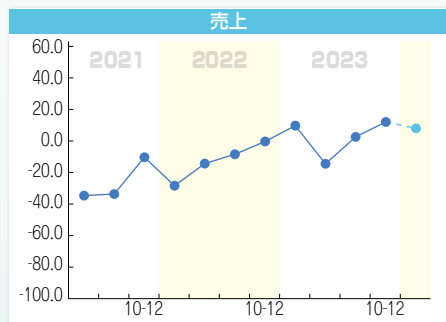
業況D・Iの推移



## 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- コロナ禍からの回復も見られ、来年以降は少し明るい見通し。人材も一定数確保できており、不足感はない。(食品卸売)
- 価格転嫁は随時行っており、順調に推移。人件費も適宜見直し、賃上げも行った。DX化やCNの推進が今後の課題。(鋼材卸売)
- 固定客が多く、業況の安定推移が見込まれる。(砕石卸売)
- 円安傾向による石油価格の高止まりにより、需要が抑えられており、市場での価格競争が熾烈化。燃料マージン圧縮により売上総利益は予算比でマイナスとなった。(石油、石油ガス卸売)

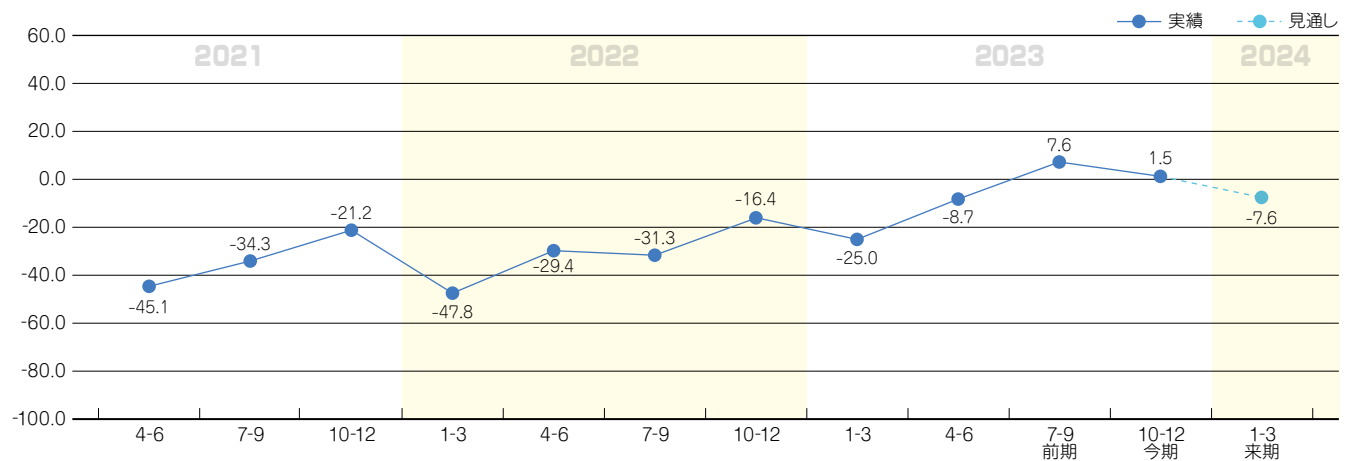


## 小売業

回答数66社

今期の業況D・Iは、前期比6.1ポイント低下の1.5。コロナ禍からの経済活動の正常化に伴う売上、収益の増加基調が一服。人手不足も深刻化している。来期の予想業況D・Iは9.1ポイント低下の▲7.6。来期も売上、収益の悪化が予想される。

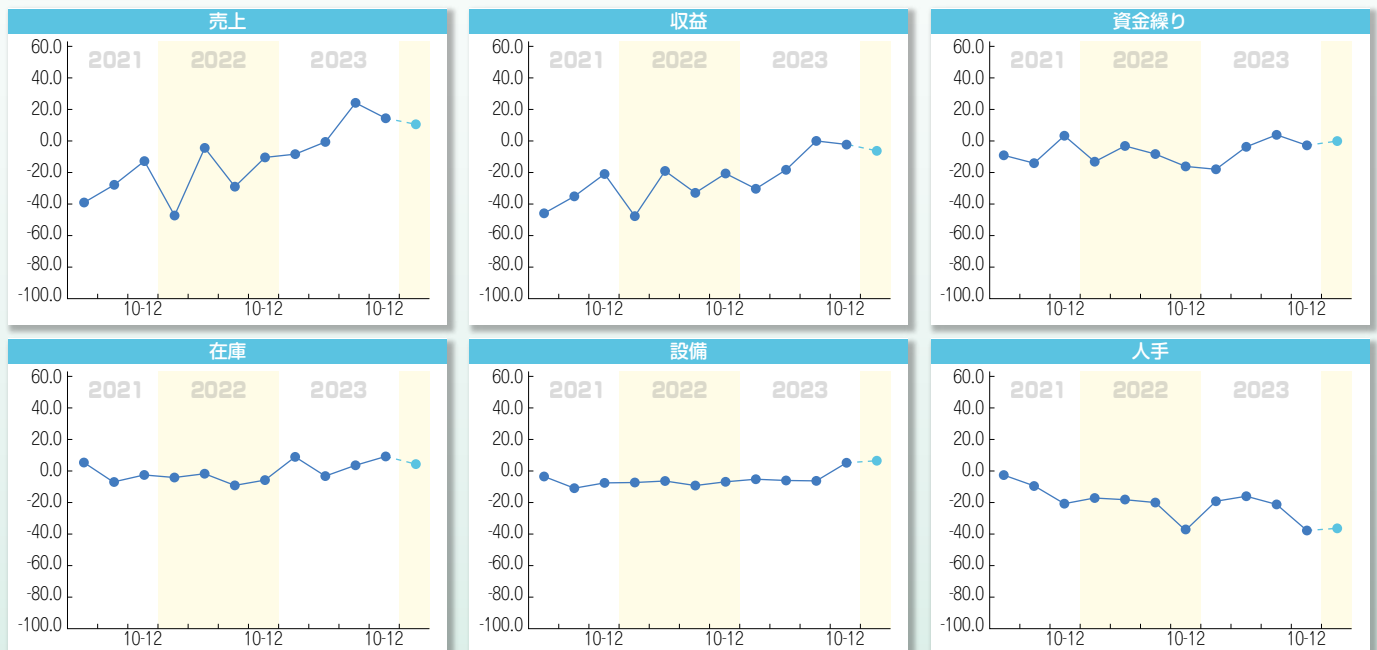
業況D・I  
の推移



### 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

●実績 ●見通し



- 来店客数は、コロナ禍からいま一つ回復していない。仕入値の高騰に伴って販売価格の値上げをせざるを得ない状況。(飲食店)
- 仕入価格上昇、売上伸び悩みと非常に厳しい状況であるが、賃金の引き上げを検討している。(ガソリンスタンド)
- 仕入コスト増加などにより利益は減少傾向。海外輸出は円安を背景として順調に推移している。(中古車販売)
- 売上は回復傾向にあるが、人手不足、店舗老朽化など問題もある。(食品販売)



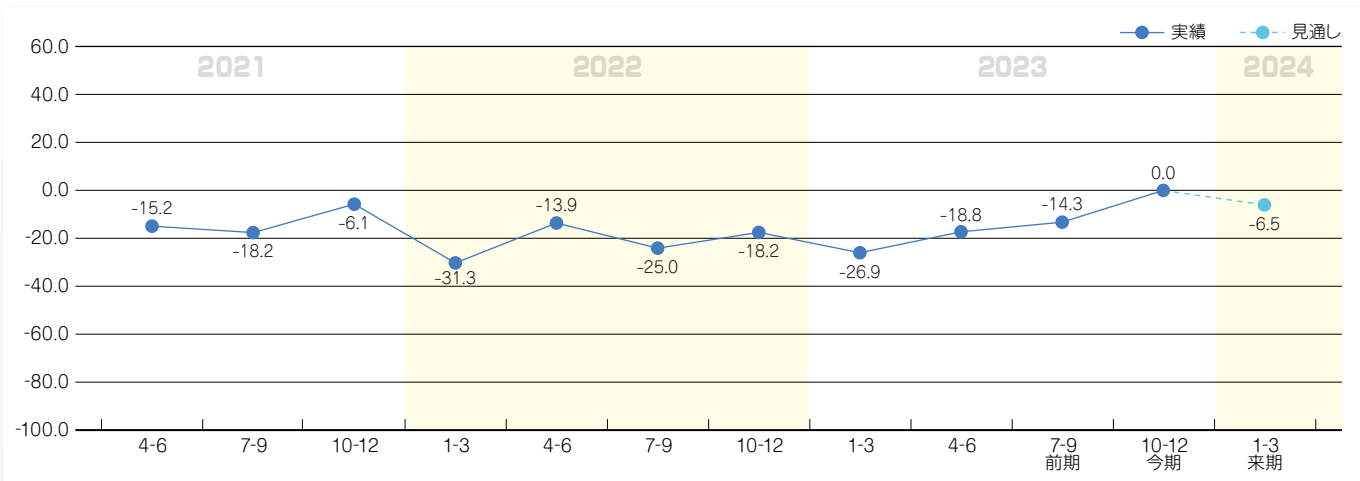
## サービス業

回答数31社

今期の業況D・Iは、前期比14.3ポイント上昇の0.0と3期連続で改善。人件費や光熱費などコスト増加に対応した価格転嫁が進み、売上とともに収益が改善した。一方で人手不足感は一層強まり、多くの企業が人材の確保や育成を課題に掲げている。来期の予想業況D・Iは6.5ポイント低下の▲6.5と悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

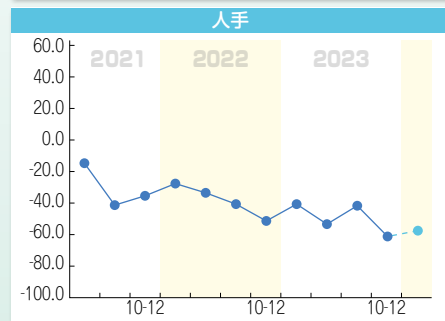
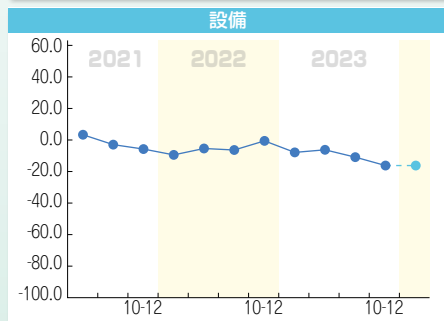
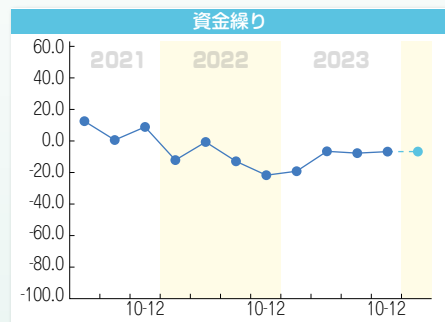
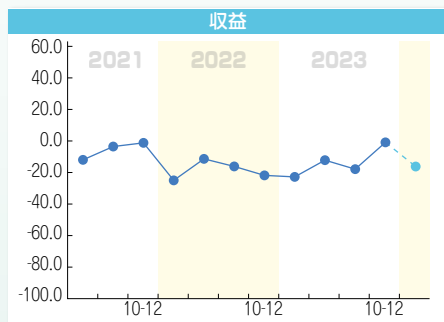
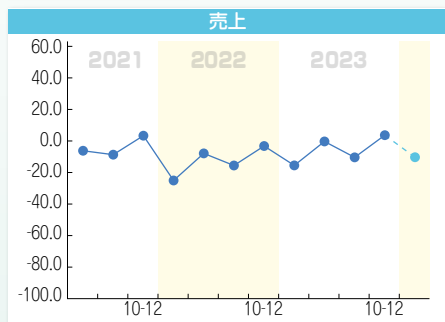
業況D・Iの推移



## 主要D・Iの推移

(注)設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し

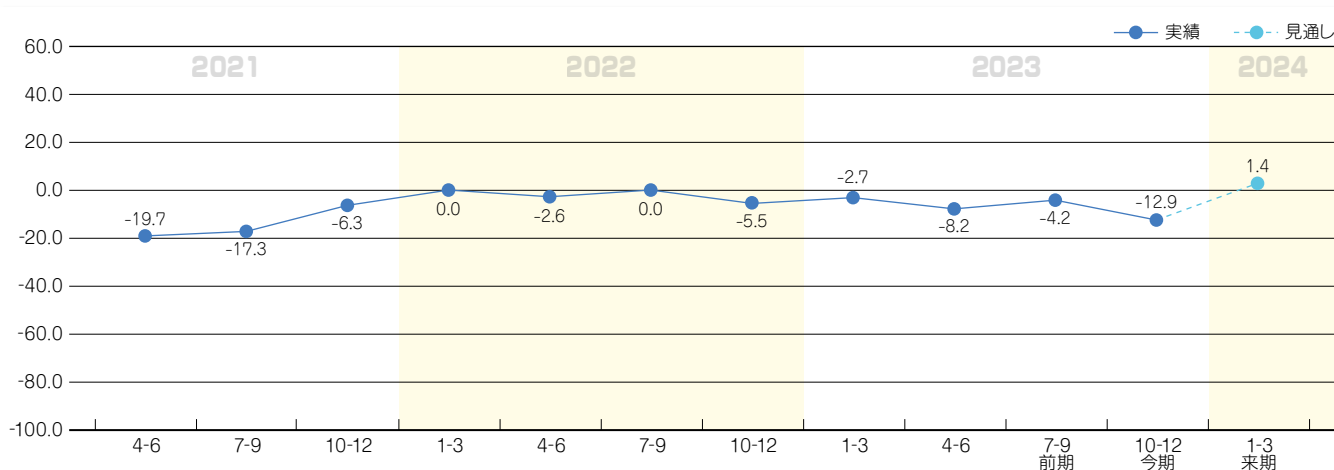


- 賃上げなどに対応するため、料金の値上げを実施した。(税理士法人)
- 受注は堅調に推移しており、業況は安定している。人材確保が課題。(自動車整備業)
- 価格転嫁はほぼ完了している。従業員数がもともと少なく、一日に受け入れられる顧客数が限られている。増員および従業員の育成が急務。(理美容業)

## 建設・不動産業

回答数70社

今期の業況D・Iは、前期比8.7ポイント低下の▲12.9となり悪化。資材価格や人件費など、各種コストの高騰が続いており、売上、収益ともに悪化。来期の予想業況D・Iは14.3ポイント上昇の1.4と改善の見通し。年度末に向けて工事の受注が増加しているとの声もあり、売上の増加を見込む企業が多い。



## 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



- 仕入価格や人件費高騰により、業況は厳しい。(土木建築)
- 外注費の値上がりにより、利益に影響が出ている。(住宅建築)
- 原材料価格高騰に伴い、販売価格の引き上げを進めている。また、自社HPのリニューアルやSNS活用などにより、宣伝を強化している。(住宅販売)
- 賃貸の駐車場や事務所は、物価高の影響を特に受けないため、業況は安定している。(不動産仲介)